

回覧

# どやのメール 市民活動ニュース

「どやの」とは、福井弁で「どうですか?」「いかがですか?」という意味で、ボランティア活動など「ちょっと始めてみませんか?」という思いが込められています。

2012年3月号(第18回)

## 発進! 僕らの市民活動情報誌 OSANPO 出発号

### ついに! というか、ようやく、というか…

昨年の12月に発刊となりました市民活動情報誌「OSANPO 出発号」。もう手にとってご覧いただけたでしょうか?

「僕らにしかできない、そんな市民活動情報誌を作ろう!」

そんな掛け声で始まった情報誌作成プロジェクト。最初は、まさに暗中模索の五里霧中でした。

「取材って、どうやってするの?」「どんな風にしたら、興味を持って読んでもらえるんやろう?」「記事は、誰が書くの?」「何を取材して、何を書いたらいいんやろう?」

取材もしたことがなければ、記事も書いたことがない、ましてや、自分たちで本を作ることなんて考えてもいなかつた私たち。「多くの人たちに喜んでもらえる情報誌が、自分たちにできるのだろうか?」誰も口にはしませんでしたが、とっても不安な船出でした。

### そこで活動している人と、その"想い"を伝えたくて

どんな情報誌を作るかを考えていくなかで、市民活動や市民活動をする団体を紹介している本や冊子を、たくさん見てきました。とってもよくできているなと感心させられるものもありましたが、何か物足りなさを感じさせられました。

どんな活動をしているのか、どこで活動をしているのか、連絡先や所在地など、そういった"情報"は書かれているのですが、どんな人たちが、どんな"想い"を持って活動しているのかが、いまひとつ伝わってこない。

市民活動に携わる人たちは、何かしらの"想い"を持っているものです。その"想い"が活動の原点となっているのです。ですから、単なる"情報"だけでなく、その活動に携わっている人と"想い"をしっかりと伝える市民活動情報誌を作ろう! そう決意を新たにしました。

### 「OSANPO」がほしい方は、さばえNPOセンターまで!

- ・「OSANPO 出発号」が欲しい・まわりに「OSANPO 出発号」が欲しいと言っている方がいる。・「OSANPO 出発号」をまわりの方たちに配りたい。・うちの団体にも取材に来て欲しい!
- ・「OSANPO」を作った人たちに会いたい!・私も「OSANPO」の作成に関わりたい! その他、なんでもお気軽に(特)さばえNPOサポートまでお問い合わせください。



#### 編集・お問い合わせ この回覧板は、鯖江市との協働事業で発行しています。

特定非営利活動法人 **さばえNPOサポート**  
(さばえNPOセンター指定管理者)

〒916-0024 鯖江市長泉寺町1丁目9-20 鯖江市民活動交流センター内  
TEL : 0778-54-7055 FAX : 0778-54-7058  
Email : info@sabae-npo.org

♥誰でも気軽に使える情報発信♥  
鯖江市内の市民団体ならばイベントやお知らせを掲載できます。

ホームページ : <http://www.sabae-npo.org/>





# 聞いて 聞いて!

# ぼくたちわたりたちの エコ活動報告会！

～平成23年度こどもエコクラブ活動交流会～

こどもエコクラブ活動交流会実行委員会 委員長 柴田直昌

本年度のこどもエコクラブ活動交流会は、市内外の約60にも及ぶ関係諸団体の協力支援のもと、約420名の子どもたちの参加を得て、盛大に開催することができました。

2部構成の前半では、鯖江市内全小学校の3年生以上の子どもたちが取り組んでいるドングリの苗木づくりについて、先に行われた大谷公園での大植樹祭と合わせて、「エコネットさばえ」からその趣旨や取り組みの様子が報告されました。

後半は交流体験です。子どもたちは、28のグループ（班）に分かれ、13の体験型ワークショップから2つのブースで、担当者と「ものづくり」しながらコミュニケーションを図り、環境のこと、エコのことを学んでいました。特に、自分が作った作品はおみやげとして各自持つて帰ることができるとあって、制作にも一層熱が入っているようでした。

世代間の交流、食育に関わる地産地消など、今日的な課題にも言及できる活動として、こどもエコクラブ活動交流

会の意義は深いと感じています。高専や大学の学生さん、若手のボランティアのみなさんを中心に班を構成し、ベテランの指導者の方々に班リーダーとしての活動をお願いしました。また、交流会の最後では、鯖江市産コシヒカリの米粉パンも話題として触れることができました。このことには限らず、交流会の二次的な価値にも目を向けていけたらと思います。

今年から実施の小学校新教育課程では、総合的な学習の時間がこれまでより週1時間減りました。小学校においては、これまで同様の取り組みを求めて無理だと思います。こどもエコクラブ活動交流会は、環境学習やエコ問題に取り組むきっかけにしか過ぎません。しかし、続けることで少しでも支援になるのならうれしい限りです。

この交流会をきっかけに、ご家庭や地域において、子どもたちの自主的な活動が育まれますよう期待しているところです。

